

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 4 日 : 国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア 眺 (めて)      イ 疎通      ウ 魅了      エ 源泉      オ 古来      カ 家屋

問二 イ

問三 それは、人

問四 イ

問五 人間外の事物とのコミュニケーション

問六 (i) もくろ (んでいた)      (ii) イ

問七 ニ

問八 人間だけが参加でき、相互承認のゲームに明け暮れるプラットフォームの外側に、事物とのコミュニケーションを回復するための場を作る必要があるから。(70 字)

問九 ロ

問十 ロ・ホ

〔二〕

問一 ア 香典      ウ 幅      エ 叱 (り)

問二 イ あいみが (い)      オ あいぞう      カ うち

問三 a

問四 ハ

問五 ニ

問六 本来人間は一人で生きることができず、社会の中には助け合うということが組み込まれている (から) (42 字)

問七 自己責任

問八 ニ

問九 イ

問十 より多くか

問十一 反対

問十二 ニ

問十三 ニ・へ

## ■出題意図

〔一〕

人間しか存在できないプラットフォームの外側に存在し、人間外の多様な事物とのコミュニケーションが可能となる場としての「庭」の重要性を指摘する宇野常寛の文章を出題した。著者は、「庭」におけるコミュニケーションが、自己とは異なる知覚で世界を認知する存在へと人間が疑似的に「変身」することを可能にするものであることを述べており、「虫」や「変身」、「庭」といった語が比喩的に用いられる著者の論理を理解し、その主張を総合的に読み解けるかどうかを測る。

〔二〕

マオリ族の贈与の儀礼を起点として、言葉と貨幣との相違、等価交換の道具であるお金が人間関係に果たす役割などについて論じることで、贈与あるいは相互扶助といった人間同士の営みの本質を明らかにしようとする平川克美の文章を出題した。言葉、貨幣、市場経済といったトピックが、順序立てて丁寧に、しかも時には逆説的な表現も含みつつ説明される文章で、文脈に従って著者の考察の流れを的確に読み取り、整理する力を測る。

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 5 日 : 国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア 包摂 ウ 許容 エ 果 (たす) カ 美德

問二 イ じょうとう オ わいきょく

問三 ロ

問四 人間の文学活動の間に存する理法を研究する学問

問五 A ニ B ロ C イ D ハ

問六 ニ

問七 ハ

問八 E イ F イ G ロ H イ

問九 イ

問十 ニ

問十一 ロ

問十二 原文に日本的選択、日本の変貌を加えることによって日本の文学を高めることにな  
る翻訳。(41 字)

問十三 ハ

問十四 言葉の背後にある無限のつらなりをたぐりよせて読むこと。(27 字)

〔二〕

問一 a ロ b ロ c ハ d イ

問二 イ

問三 ロ

問四 逃げ

問五 e

問六 ニ

問七 (i)C ハ D ニ E ロ F イ

(ii)自分も自分より優れた存在から命を狙われていることに気づいていない (33 字)

問八 イ

問九 (i)ニ (ii)イ

問十 ハ

問十一 (i)しょうよう (ii)ニ

問十二 いづく (んぞ)

問十三 x ハ y ロ z イ

問十四 (i)もと (より) (ii)ロ

問十五 H ニ I イ

問十六 (i)ロ (ii)ハ

問十七 ハ

## ■出題意図

〔一〕

昭和19年に中国文学者吉川幸次郎が作成した書簡の一部で、文学の研究および学人の翻訳のあり方について、吉川が思うところを述べた文章を出題した。創作と研究と、さらには文人の翻訳と学人の翻訳とを対比的に扱いながら、文学とは何か、本当の意味で読むとはどういうことかが提示される。象徴的に用いられる語の意味を文脈に合わせて的確に判断し、抽象度の高い文章の論旨を正しく理解できる力を測る。

〔二〕

中国戦国時代の思想家である荘子の言動を記した『今昔物語集』の説話と、その説話の元になった『荘子』の文章（漢文を書き下し文に改めたもの）とを出題した。古典文法などの基礎的な知識をもとに内容を正確に把握する力、『今昔物語集』所収の説話で見出される荘子の賢明さと『荘子』が提示する考え方の差異を的確に分析する力などを測ることで、古典に対する興味や意識の高さを確認する。

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 6 日 : 国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア 霊長 エ 巧妙 カ 洞察

問二 イ ふる (わせ) ウ かな (った) オ まれ

問三 ハ

問四 しかもミツ

問五 イ

問六 A イ B ロ C ホ D ハ

問七 ニ

問八 ハ

問九 イ

問十 行動の同調と評価の独立性

問十一 評判につられて本当はあまり質の高くないものを選択してしまう (という事象) (29 字)

問十二 ハ

〔二〕

問一 ア けっしゅつ イ ひょうし ウ おんちょう

問二 エ 念頭 オ 妥当 カ 恣意

問三 ニ

問四 統治

問五 生産過程

問六 「主張や

問七 指揮者になろうと決心した (12 字)

問八 百人の奏者

問九 ニ

問十 ニ

問十一 ハ

問十二 ハ

## ■出題意図

〔一〕

人間と同様に「集団での意思決定」を行う社会性昆虫の一例としてミツバチを取り上げ、その意思決定のプロセスの特性を説明した亀田達也の文章を出題した。ミツバチが意思決定を行う際のプロセスに、人間とは異なる優れた仕組みがあることを、「閾値」、「集合知」、「情報カスケード」などの専門性の高い用語や概念を用いて説明しており、これらが意味するところを正確に読み取りながら、文章全体を論理的に理解する力を測る。

〔二〕

オーケストラによる演奏を、統治という視点から解き明かそうとした猪木武徳の文章を出題した。著者は、音楽に対する自らの知見に基づきつつ、その一方でオーケストラと共同体とを対比的に扱い、マックス・ウェーバーの「支配の諸類型」の論を援用しながら、オーケストラにおけるリーダーとして、指揮者に求められる要件を提示する。音楽と社会とを横断的に見据えつつ、両者の関係を論ずる著者の行論を文脈に沿って的確に読み解く能力を測る。

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 7 日 : 国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア こずえ ウ さくそう

問二 イ 獲物 エ 拍子 オ 通念 カ 唐突

問三 ハ

問四 何か私のあ

問五 乙

問六 ロ

問七 私の行為として意志するためにはさらに先立つ意志が要求されなければならない、その繰り返しに終わりが無い (49 字)

問八 「扉が開いた」というできごと・「腕をのばす」という動作

問九 ロ

問十 ニ・ホ

〔二〕

問一 ア 委 (ねる) ウ 拘束 オ 凡庸

問二 イ ちぎ (られる) エ きえ カ けんかく

問三 恩寵

問四 B ハ C ニ D イ

問五 イ

問六 E ヘ F ホ

問七 労働における単調な反復作業が職人の技術を高め、その熟練の所産として自然と美が生み出されるから。(47 字)

問八 ハ

問九 ロ

問十 誠実への放棄・仕事への忌避・私益への情熱

問十一 ニ

## ■出題意図

〔一〕

『自らの意志によって』『自由に』行為するとは、どういうことか」という問いを徹底的につきつめて考察するとどうなるか、その考察の過程を提示した野矢茂樹の文章を出題した。次々に示される著者の疑問とそれに対する答えとを、その都度的確に把握しながら読み進め、著者が展開する論証の過程を正確に読解できる力を測る。

〔二〕

柳宗悦が、民衆の手仕事によって作られた日用品である「民衆的工藝」について、その美のあり方を様々な角度から説いた文章を出題した。材料や作り手、生産の仕方など、工藝が本来的にその属性として備えている様々な美を見出し、それらを一つずつ取り上げて丁寧に説明している。その言い回しや表現などを十分に理解し、著者の意図するところを読み取れるかどうかを測る。